

未来を創る経営への視座

帝人株式会社 取締役会長

大八木 成 男



「遠くを見ると過去が見える」と宇宙物理学者から聞いた。137億年という宇宙の生命を解く情報が、はるかかなたの宇宙から日々地球に届いているという。何十億年も前の過去の宇宙から送られてくる情報は、地球の生誕を紐解き、また未来の太陽系の姿を描く鍵となるとのロマンのある話だ。だが正直なところ、時空を超越した話は凡人の理解を超えているが故に難しい。会社の歴史は短いが「未来を創る」ことを信条として意図をもって切磋琢磨してきた人々の物語であるので、親近感をもって理解できる。

私が勤める会社は来年に百周年を迎える。今年は白寿。人生に例えれば、まさに長寿であり、戦争を含めて社会変動が激しかった大正、昭和、平成の3時代にわたり、社会の中で認められ生かされてきたことに感謝している。私どもの経営者が創り上げてきた歴史には、誇るべきものも多々あるが、今日歴史を紐解いて意味があるのは失敗からの教訓だろう。その時々経営陣が経済社会との関わりの中で、何を課題として捉え、何を成果として残そうと意思決定をしたのか、そして何故に成果を残すことができなかったのか等を理解することが重要だと思う。

私はCEOに就任直後にリーマンショックに見舞われ、以降事業構造